

学生時代に訪れていた阿蘇に移住

矢尾板さん家族が南阿蘇村に移住したのは2012年。移住のきっかけは「直感と運命」という亨さん。全国各地の中から移住先を探し情報を集めたところ、景観、利便性、子育て環境などバランスが良かつたのが南阿蘇村だったそう。

九州を転々とする中で、『草千里』や『やまなみハイウェイ』をドライブしていた時に、圧倒的な景観に魅了され、学生時代に訪れていたことを思い出し、阿蘇に移住する確まります。妻のめぐみさんが先に阿蘇へ一時的に滞在し、その時につながった人から空き家を紹介してもらつたことが、移住する最後の決め手となりました。

晴れて家族で南阿蘇村生活が始まる

東京のIT企業から独立し、3、4年はリモートで仕事を行います。「仕事でホームページ制作や映像制作を行っていたので、ドローンをやってみよう」と始めたところ、楽しそうめり込んでしまいました。趣味で始めた好きなことが、いつの間にか楽しい仕事になっていました」と、笑顔で話す亨さん。

今では好きが高じて、観光や企業のPR動画制作、テレビ番組やCM・映画などに、プロドローンパイロットとして撮影に携わっており、その他、ドローンを軸とした講師や導入支援、実証実験、イベントやレース大会の企画運営など多岐にわたるサービス提供を行っています。

「仕事は九州が多く、中国・四国地方や関西圏などにも出張で行くこともあります。ドローン歴は8年目。仕事は毎回楽しいし、周りの人々が喜んでいる姿を

ダイレクトに見て感じることができるので嬉しいです。幅広い範囲で創造的な活動をする為に『くまもとドローンラボ』を立ち上げ、今後更に、多くの人に還元できる取組みを行っていきたいと思っています」と益々行つてみると自分一人しかいないスポーツが多いので、そういう場所を住んでいるからこそ探せるし、まだまだ村の中でも知らない場所がたくさんあるので、「景観のトレジャーハント」を飽きずにつづと続けられる楽しみがあります」と、南阿蘇村の楽しみ方を話す亨さん。

南阿蘇村での未来を考える

「ここでの暮らし、現状にとても満足しています。この豊かな自然と地域の特性を活かし、南阿蘇村に貢献できるように活動をしていくと共に、ドローンの仕事も世の中の状況に応じて変化させて続けていきたいです」。

南阿蘇村の自然の中で暮らしながらも、村外との仕事のつながりも強く、好きなことを仕事にしているということが、自分らしくいられるのだと感じました。

趣味で始めた好きなことが
いつの間にか仕事になつていた



【くまもとドローンラボ】 矢尾板 亨さん

東京都出身、システムエンジニア
(IT企業勤務)
南阿蘇村に移住して8年目。
現在、妻、子ども4人(12歳、9歳、6歳、2歳)の6人暮らし。

